
令和3年度 奈良市民意識 調査結果(概要版)

令和4年3月



奈良市

目 次

■調査実施の概要	1
1. 奈良市での生活について（問1～4）	2
2. 日ごろの生活について（問5～8）	3
3. 市政について（問9～14）	4
4. 奈良市への愛着や誇りについて（問15～18）	7
5. 災害に対する備えについて（問19）	7
6. 新型コロナウイルス感染症による影響について（問20～23）	8
7. 行政手続きのオンライン化について（問24～26）	14
8. インターネット回答について	16

〈調査実施の概要〉

1 調査の目的

市民の皆様にご日々の生活で感じていることや市政についてのご意見などをお尋ねし、これからの市政のあり方を考えていくにあたっての基礎資料とするため、奈良市民意識調査を実施しました。

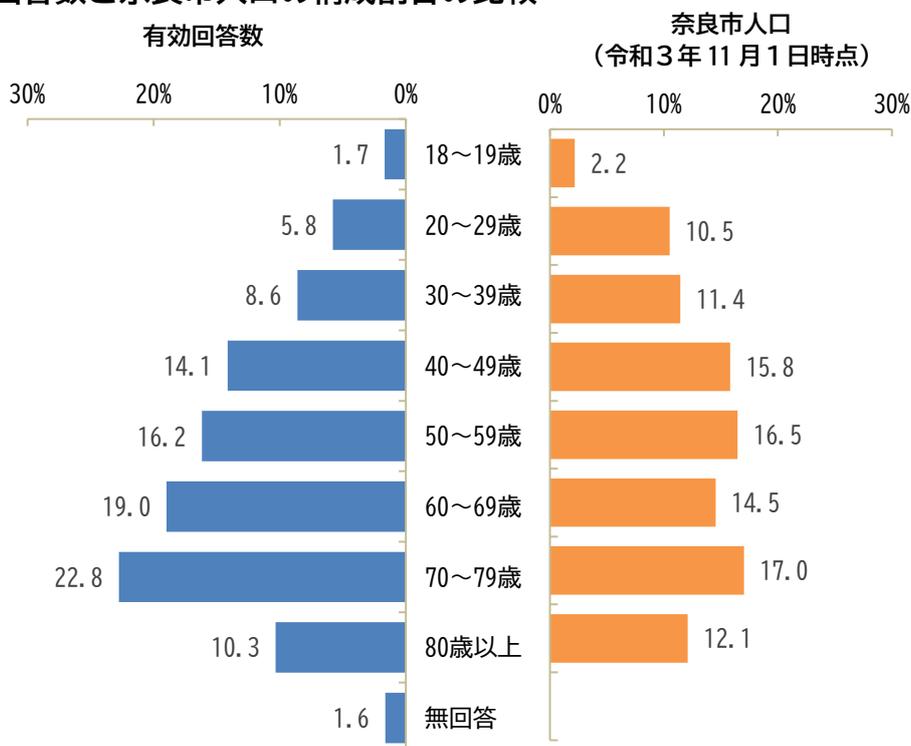
2 調査について

- (1) 調査地域 奈良市全域
- (2) 調査対象 奈良市内在住の18歳以上の男女各1,500人 計3,000人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から層化無作為抽出
- (5) 調査方法 配布：郵送、回収：郵送及びインターネット回答
- (6) 調査期間 令和3年11月1日（月）～11月19日（金）
(ただし期間後に到着した調査票も集計対象とした)

3 回収状況

	有効回答数（人）	有効回収率（％）
合計	1,608	53.6

4 有効回答数と奈良市人口の構成割合の比較



1. 奈良市での生活について（問1～4）

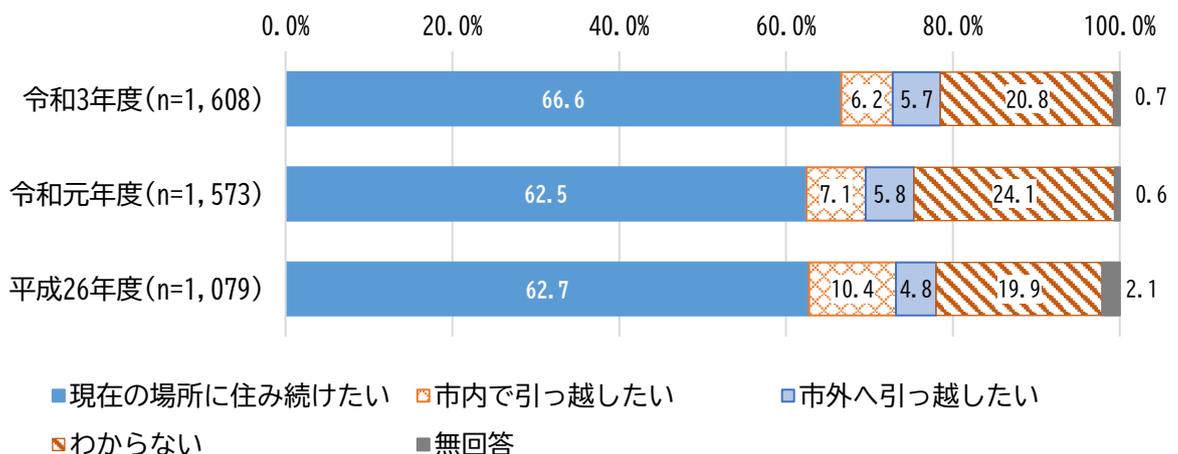
テーマの結果概要

- 奈良市での居住年数は、31～40年が18.8%で最も高く、31年以上の方が過半数。
- 現住所の直前に住んでいたところは、過半数が市外。
- 転居のきっかけの上位3つは、「住宅・マンションの購入」、「結婚」、「就職・転勤」。
- 現住所を転居先を選んだ理由の上位3つは、「交通の便がよいから」、「住まいの周辺が静かだから」、「親や子、親族がいるから」。
- 居住する地域で83.5%の方が「住みやすい」又は「どちらかという住みやすい」と回答。
- 66.6%の方が「現住所に住み続けたい」と回答し、約6%が「市外に引っ越したい」と回答。
- 「市外に引っ越したい」と考えている方の引越のきっかけの上位は、「就職・転勤」、「子どもの成長・独立」。
- 「市外に引っ越したい」と考えている方が奈良市を選ばない理由の上位3つは、「交通の便が良くないから」、「日ごろの買い物等が不便だから」、「にぎわいや活気がないから」。

Pick Up 1：居住する地域の住みやすさの状況（問4）

（1）単純集計

これからも住み続けたいかについて、「現在の場所に住み続けたい」が66.6%と最も高くなっています。



※平成26年度は「奈良市のまちづくりに関する市民アンケート」

2. 日ごろの生活について（問5～8）

テーマの結果概要

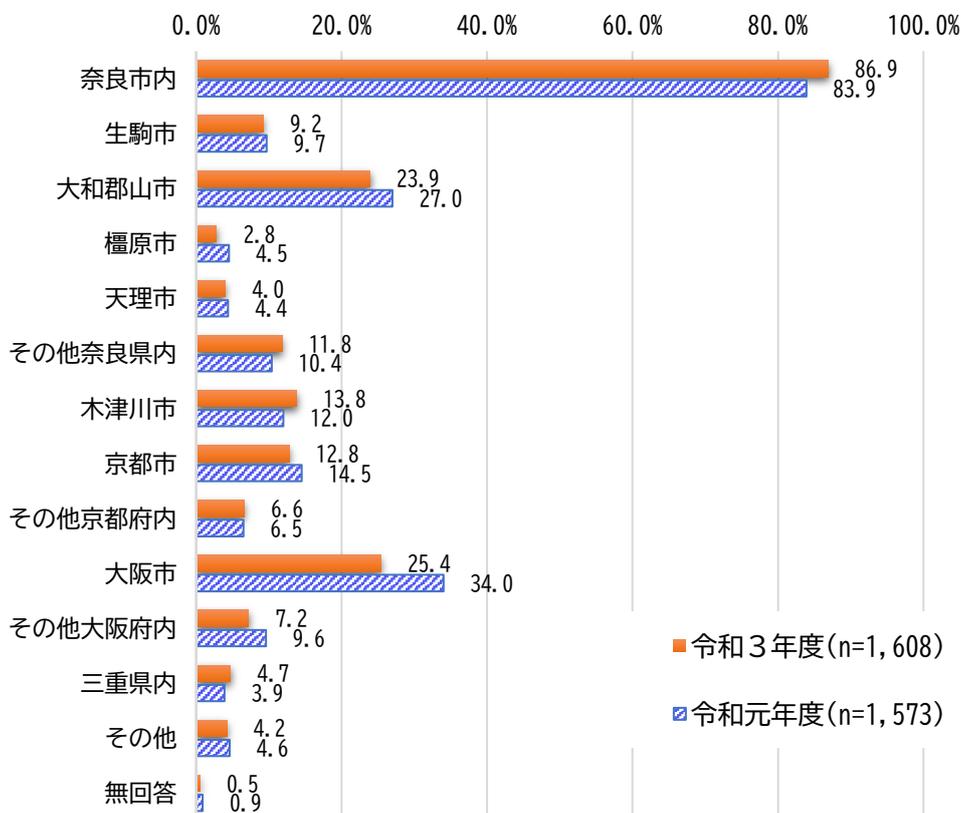
- 生活満足度について、75.7%の方が「満足」又は「どちらかといえば満足」と回答。
- 項目別で、「満足」又は「どちらかといえば満足」と答えた割合が高いものの上位3つは、「住まいのこと」、「治安のこと」、「健康のこと」。
- 相談ごとがあるときの相談相手について、「家族や親族」が80.8%で最も高く、次いで「隣近所の人や知人・友人」が32.6%。一方で、約3%の方が「相談相手がない」と回答。
- 休日を過ごすためによく行く場所は、「奈良市内」が86.9%で最も高く、次いで「大阪市」が25.4%。

Pick Up 1：休日によく行く場所（問8）

（1）単純集計

休日の余暇を過ごすのにふだんよく行く場所について、「奈良市内」が86.9%と最も高く、次いで「大阪市」が25.4%となっています。

令和元年度と比較すると、「大阪市」の割合が特に減少しています。



3. 市政について（問9～14）

テーマの結果概要

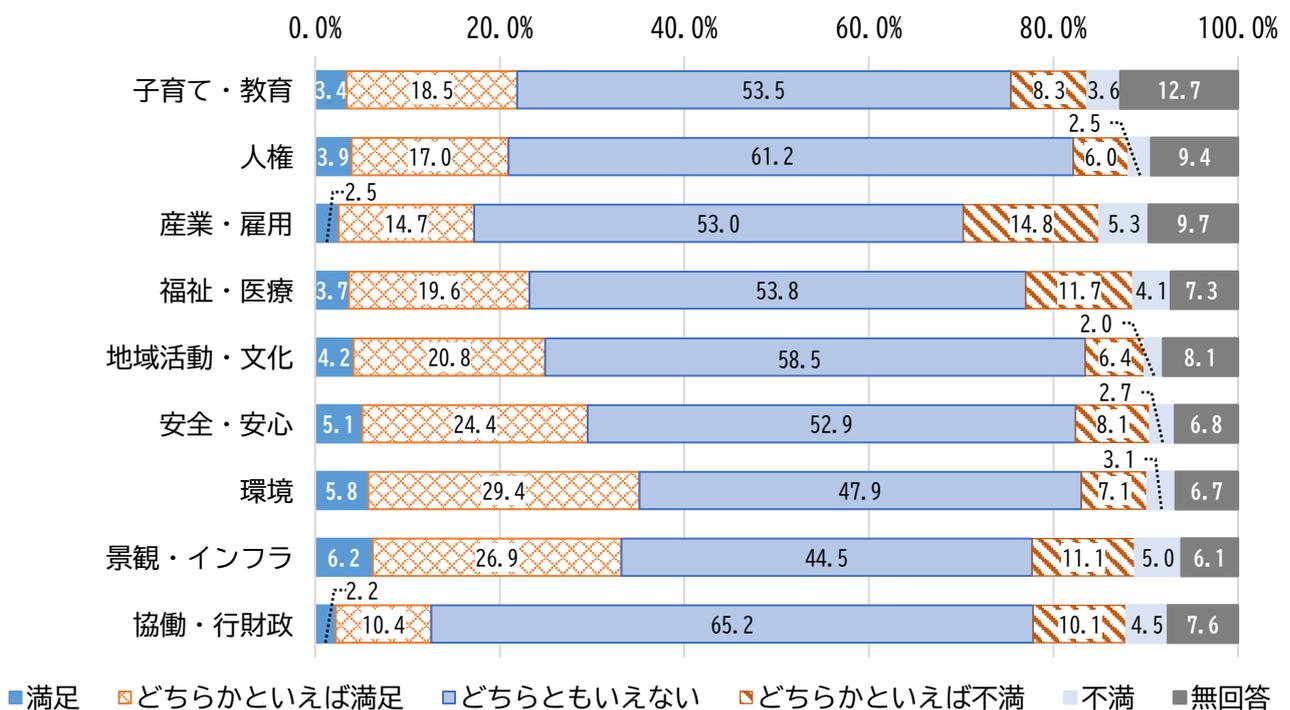
- 市政への関心は、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計で68.7%。
- まちづくりの取組への関心では、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計が56.5%。
- まちづくりの取組に参加してみたいかについては、「参加している」と「参加してみたいができない」の合計が45.2%。
- 参加している、参加してみたいまちづくりの取組の上位3つは、「環境美化活動」、「祭り等の伝統行事」、「地域おこしのイベント活動」。
- まちづくりの取組に参加していない主な理由の上位3つは、「仕事で都合がつかない」、「体力や健康の問題」、「活動を知らない」。
- 奈良市の取組で評価するものについては、「文化遺産」が42.1%で最も高く、次いで「生活・環境衛生」が36.7%、「消防・救急」が35.8%。
- 一方で今後さらに力を入れるべき重要だと思うものについては、「医療と健康」が77.0%で最も高く、次いで「消防・救急」が76.8%、「防災対策」が75.8%。

Pick Up 1：奈良市の取組で評価するもの（問14）

（1）単純集計

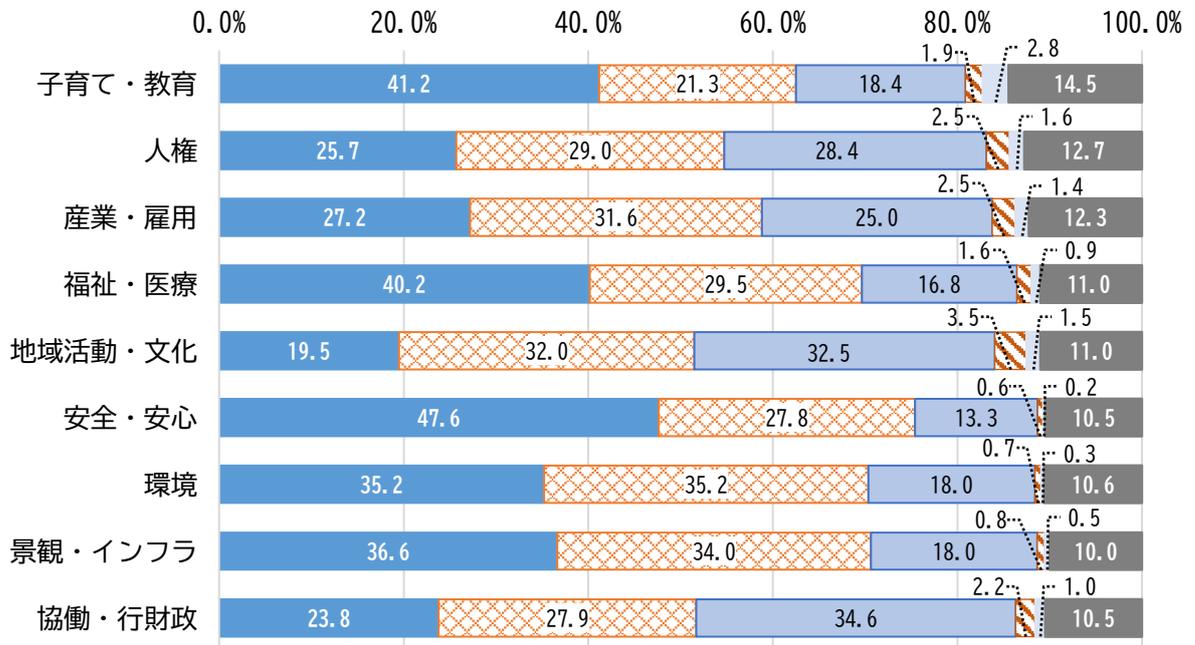
① 9つの分野の満足度（評価）

評価する項目を9つの分野に分けると、「環境」と「景観・インフラ」について、「満足」又は「どちらかといえば満足」と答えた割合が3割を超えています。



②9つの分野の重要度

重視する項目を9つの分野に分けると、「安全・安心」について、「重要」又は「どちらかといえば重要」と答えた割合が最も高くなっています。

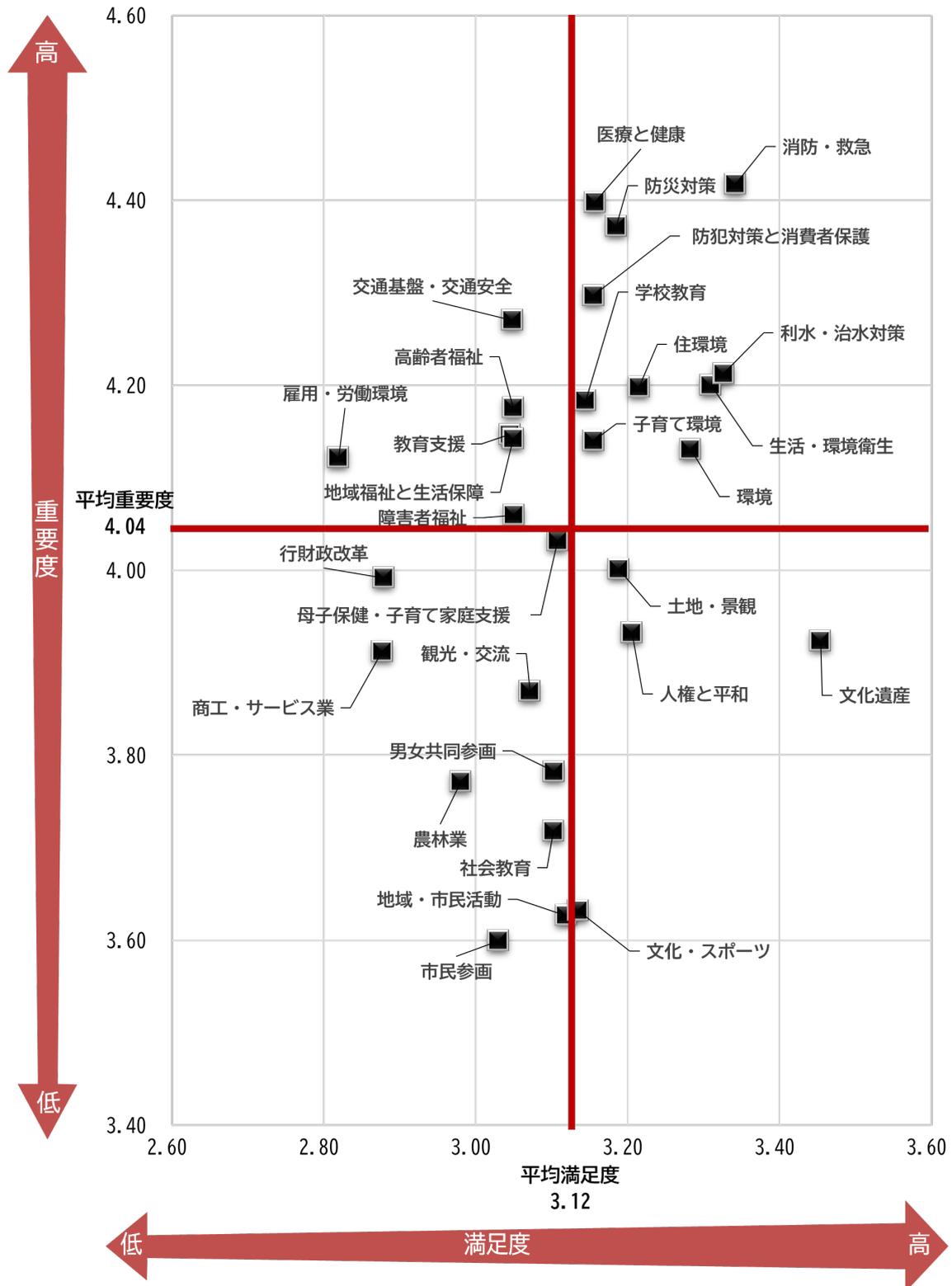


■重要 ■どちらかといえば重要 ■どちらともいえない ■どちらかといえば重要ではない ■重要ではない ■無回答

分野	取組
子育て・教育	母子保健・子育て家庭支援 子育て環境 学校教育 教育支援
人権	人権と平和 男女共同参画
産業・雇用	観光・交流 商工・サービス業 農林業 雇用・労働環境
福祉・医療	地域福祉と生活保障 障害者福祉 高齢者福祉 医療と健康

分野	取組
地域活動・文化	地域・市民活動 文化・スポーツ 社会教育 文化遺産
安全・安心	防災対策 消防・救急 防犯対策と消費者保護
環境	環境 生活・環境衛生
景観・インフラ	土地・景観 交通基盤・交通安全 住環境 利水・治水対策
協働・行財政	市民参画 行財政改革

(2) 満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識



4. 奈良市への愛着や誇りについて (問 15～18)

テーマの結果概要

- 70.6%の方が奈良市に住んでよかったと回答。
- 奈良市への愛着については、「強く愛着を感じる」と「ある程度愛着を感じる」の合計が81.4%となっており、令和元年と比較して大きな変化はありません。
- 奈良市に当てはまるイメージは、「伝統的」が64.7%で最も高く、次いで「ゆったりとした」が50.7%、「保守的」が47.8%となっています。

5. 災害に対する備えについて (問 19)

テーマの結果概要

- 災害に対する備えは、「食糧や水の備蓄」が52.4%で最も高く、次いで「避難場所や避難方法の確認」が44.5%、「非常持出品（袋）の常備」が36.2%。

6. 新型コロナウイルス感染症による影響について（問 20～23）

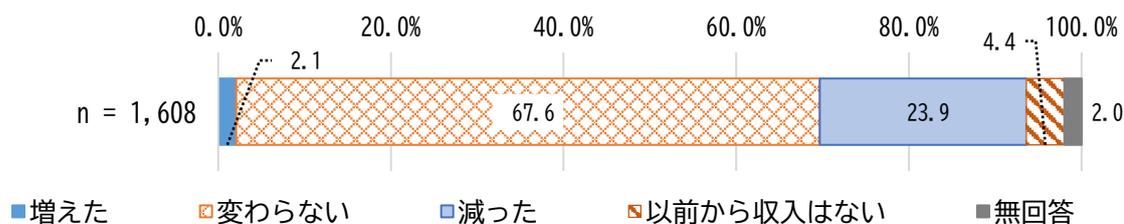
テーマの結果概要

- 収入については、「変わらない」が67.6%で最も高く、次いで「減った」が23.9%。
- 支出については、「変わらない」が56.3%で最も高く、次いで「増えた」が24.9%。
- 働き方の変化については、「以前から働いていない」が34.3%で最も高く、次いで「選択肢の中で当てはまる変化はない」が27.3%。
- 普段の行動の変化については、買い物と外食で「減った」又は「とても減った」の合計が5割を超えている一方で、インターネットショッピングでは「とても増えた」と「増えた」をあわせた割合が3割を超えている。
- 消費活動を行う条件については、「自身のワクチン接種が完了していること」が61.2%と最も高く、次いで「新規感染者数が一定程度に落ち着いていること」が60.6%。

Pick Up 1：金銭面での変化（問20）

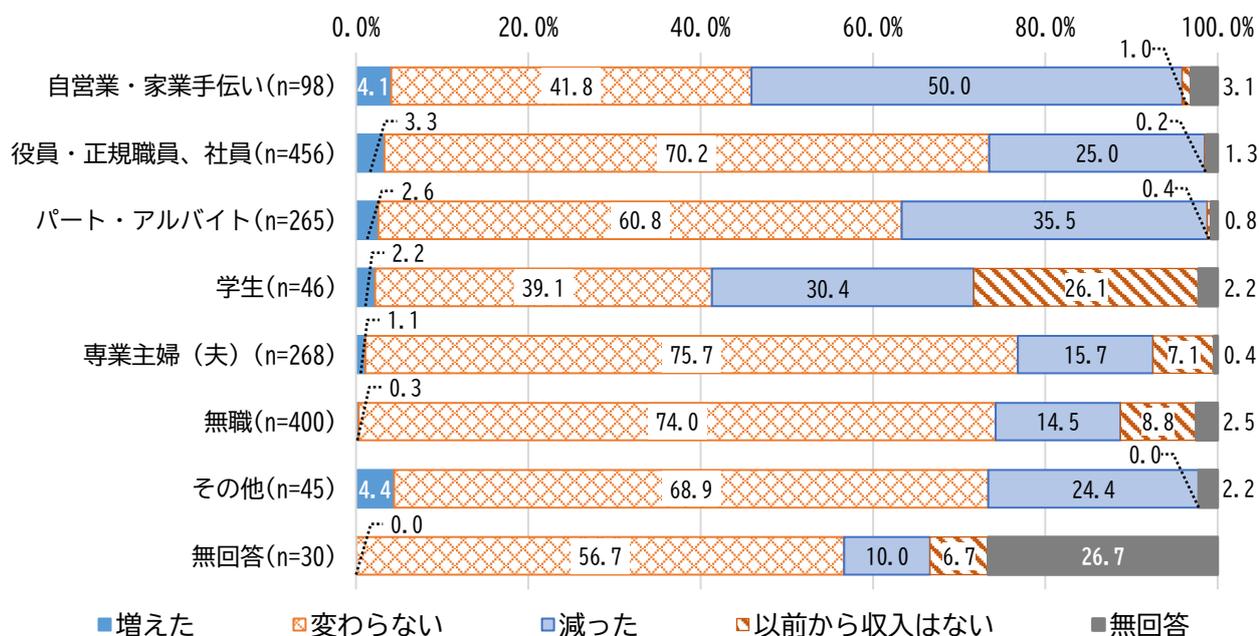
（1）収入 ①単純集計

コロナ拡大以前と比べて収入の変化について、「変わらない」が67.6%と最も高く、次いで「減った」が23.9%となっています。



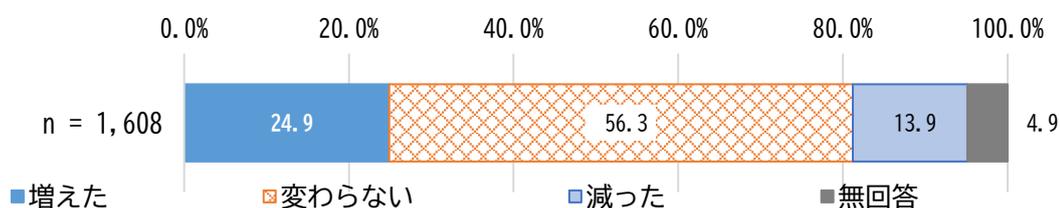
②職業別

職業別では、自営業・家業手伝いと学生を除いたすべての職業で「変わらない」と答えた方の割合が5割を超えています。自営業・家業手伝いでは「減った」と答えた割合が5割となっていて、ほかの職業よりも特に高くなっています。



(2) 支出 ②単純集計

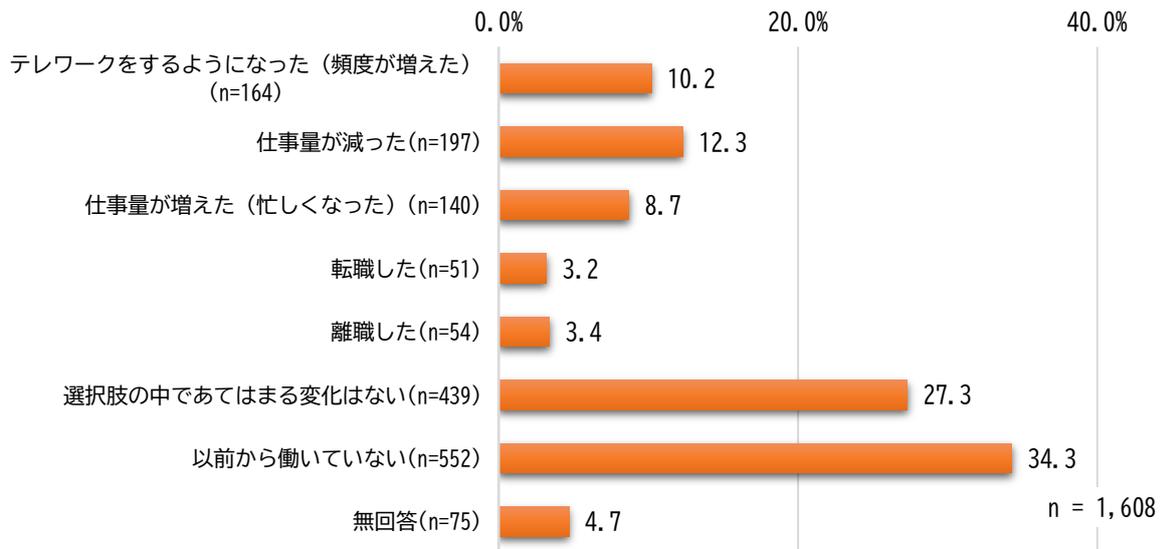
コロナ拡大以前と比べて支出の変化について、「変わらない」が56.3%と最も高く、次いで「増えた」が24.9%となっています。



Pick Up 2 : 働き方の変化 (問21)

(1) 単純集計

コロナ拡大以前と比べて働き方の変化について、「以前から働いていない」が34.3%と最も高く、次いで「選択肢の中で当てはまる変化はない」が27.3%となっています。



(2) クロス集計 業種別

業種別では、情報通信業で「テレワークをするようになった(頻度が増えた)」がほかの業種と比べて特に高くなっています。一方で飲食店・宿泊業、その他サービス業では「仕事量が減った」がほかの業種と比べて高くなっています。

選択項目		テレワークをするようになった (頻度が増えた)	仕事量が減った	仕事量が増えた (忙しくなった)	転職した	離職した	選択肢の中ではまる変化はない	以前から働いていない	無回答
回答者属性(n=合計) 上段(人):下段(%)									
●業種別	全体 (n=819)	143 17.5	162 19.8	127 15.5	46 5.6	15 1.8	347 42.4	14 1.7	19 2.3
	農業・林業・漁業 (n=13)	1 7.7	3 23.1	2 15.4	1 7.7	-	4 30.8	2 15.4	1 7.7
	鉱業 (n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設業 (n=36)	6 16.7	8 22.2	5 13.9	3 8.3	1 2.8	14 38.9	2 5.6	-
	製造業 (n=77)	15 19.5	23 29.9	7 9.1	2 2.6	-	32 41.6	1 1.3	2 2.6
	電気・ガス・熱供給・水道業 (n=7)	4 57.1	2 28.6	1 14.3	-	-	1 14.3	-	-
	情報通信業 (n=20)	15 75.0	2 10.0	2 10.0	2 10.0	1 5.0	3 15.0	-	1 5.0
	運輸業 (n=20)	3 15.0	6 30.0	4 20.0	-	-	7 35.0	-	-
	卸売・小売業 (n=74)	13 17.6	13 17.6	9 12.2	1 1.4	1 1.4	37 50.0	1 1.4	1 1.4
	金融・保険業 (n=38)	16 42.1	4 10.5	5 13.2	1 2.6	-	17 44.7	-	-
	不動産業 (n=21)	3 14.3	1 4.8	1 4.8	1 4.8	-	13 61.9	2 9.5	-
	飲食店・宿泊業 (n=36)	-	18 50.0	3 8.3	3 8.3	2 5.6	10 27.8	1 2.8	-
	医療・福祉 (n=127)	10 7.9	9 7.1	38 29.9	8 6.3	3 2.4	61 48.0	3 2.4	2 1.6
	教育・学習支援業 (n=53)	11 20.8	8 15.1	17 32.1	3 5.7	2 3.8	22 41.5	-	-
	複合サービス事業 (n=20)	-	6 30.0	1 5.0	1 5.0	-	11 55.0	-	1 5.0
	その他サービス業 (n=109)	16 14.7	41 37.6	7 6.4	10 9.2	3 2.8	34 31.2	-	7 6.4
	公務、その他上記以外の業種 (n=93)	14 15.1	13 14.0	12 12.9	5 5.4	-	46 49.5	2 2.2	2 2.2
	無回答 (n=36)	16 21.3	5 6.7	13 17.3	5 6.7	2 2.7	35 46.7	-	2 2.7

※農業・林業・漁業、電気・ガス・熱供給・水道業の回答者数が少ないことに注意してください。

(3) クロス集計 通勤先別

通勤先別では、兵庫県と大阪府で「テレワークをするようになった(頻度が増えた)」の割合がほかの県と比べて高くなっています。

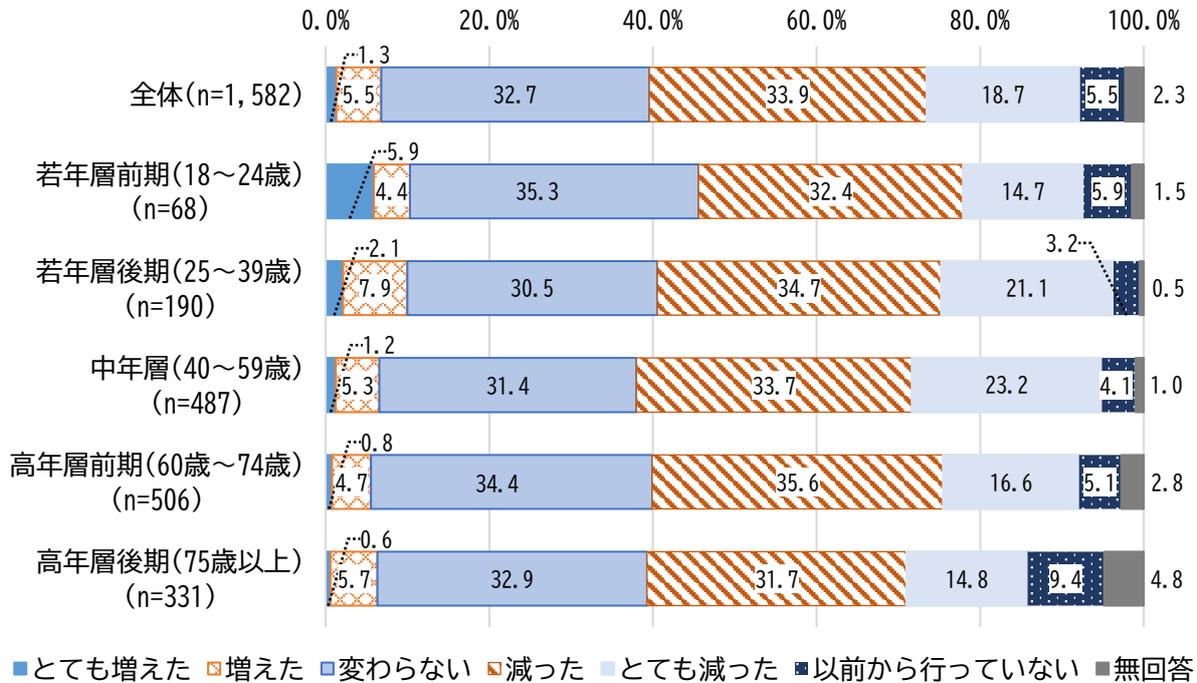
回答者属性(n=合計) 上段(人):下段(%)		選択項目 テレワークをするようになった (頻度が増えた)	仕事量が減った	仕事量が増えた (忙しくなった)	転職した	離職した	選択肢の中であてはまる変化はない	以前から働いていない	無回答
● 通勤先別	全体 (n=865)	152 17.6	167 19.3	128 14.8	46 5.3	15 1.7	358 41.4	34 3.9	20 2.3
	奈良市内 (n=313)	29 9.3	70 22.4	51 16.3	14 4.5	6 1.9	139 44.4	11 3.5	6 1.9
	奈良市以外の奈良県内 (n=94)	8 8.5	23 24.5	17 18.1	10 10.6	3 3.2	41 43.6	1 1.1	1 1.1
	大阪府 (n=200)	72 36.0	31 15.5	23 11.5	4 2.0	2 1.0	74 37.0	9 4.5	2 1.0
	京都府 (n=46)	13 28.3	4 8.7	5 10.9	3 6.5	3 6.5	15 32.6	4 8.7	3 6.5
	兵庫県 (n=8)	3 37.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	-	2 25.0	2 25.0	-
	滋賀県 (n=4)	-	-	-	-	-	4 100.0	-	-
	三重県 (n=3)	-	-	1 33.3	-	-	2 66.7	-	-
	その他県外 (n=7)	4 57.1	2 28.6	-	3 42.9	-	-	-	-
	無回答 (n=190)	23 12.1	36 18.9	29 15.3	11 5.8	1 0.5	81 42.6	7 3.7	8 4.2

※兵庫県、滋賀県、三重県、その他県外の回答者数が少ないことに注意してください。

Pick Up 3：普段の行動の変化（問22）

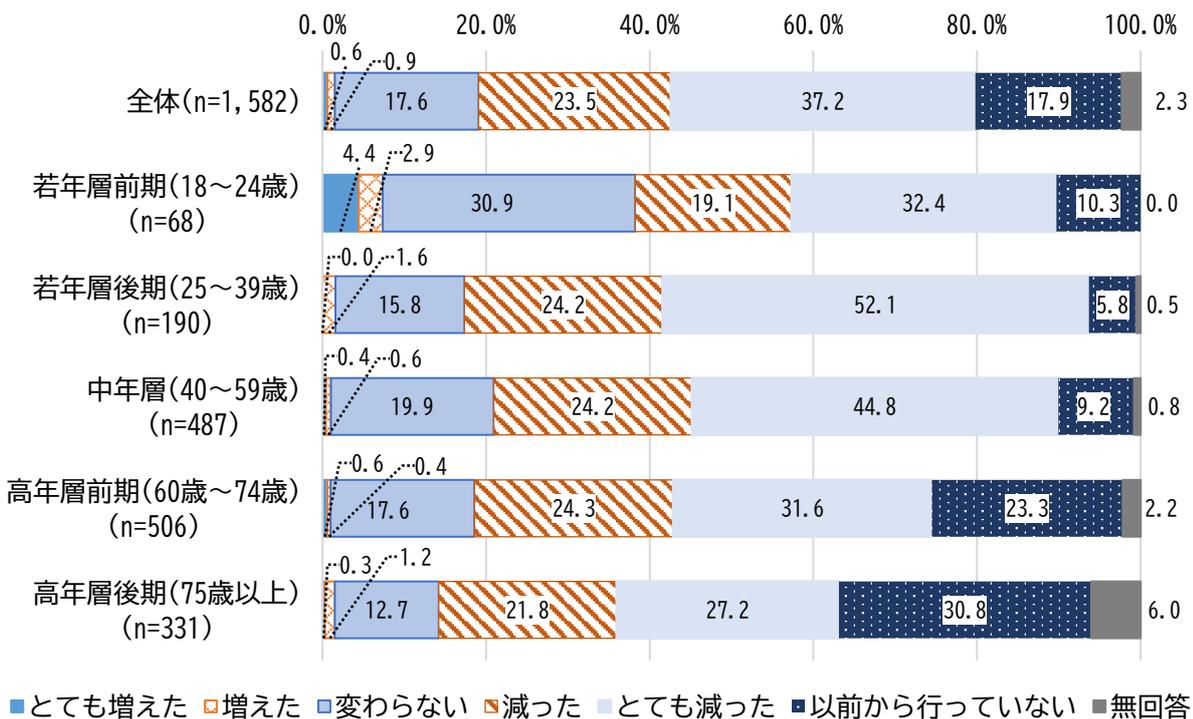
（1）クロス集計 ①奈良県内の大型商業施設（ショッピングモール等）での買い物

年齢層別では、「減った」と「とても減った」をあわせた割合が高くなっており、年齢層での大きな差異はみられません。



（2）クロス集計 ②奈良県外での買い物

年齢層別では、若年層前期で「変わらない」の割合が、若年層後期で「とても減った」の割合がほかの年齢層と比べて高くなっており、特に若年層後期の「とても減った」は5割を超えています。



7. 行政手続きのオンライン化について (問 24~26)

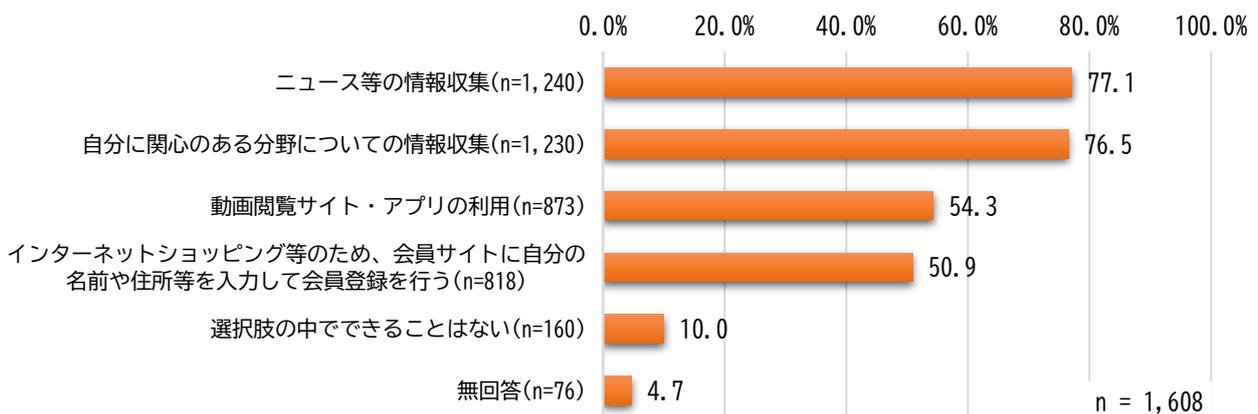
テーマの結果概要

- デジタル機器の利用について、「ニュース等の情報収集」が77.1%と最も高く、次いで「自分に興味のある分野についての情報収集」が76.5%。
- オンライン手続きを利用するかについて、「すると思う」が60.6%。
- オンライン手続きを利用しない理由については、「オンラインの操作に自信がないから」が40.8%で最も高い。
- マイナンバーカードの所持について、「持っている」が57.9%。
- マイナンバーカードを所持していない理由については、「個人情報の取扱いに不安がある」が53.6%で最も高い。

Pick Up 1 : デジタル機器の利用について (問24)

(1) 単純集計

スマートフォンやパソコン等デジタル機器を利用してできることについて、「ニュース等の情報収集」が77.1%と最も高く、次いで「自分に興味のある分野についての情報収集」が76.5%となっています。



Pick Up 2 : 行政手続きのオンライン化 (問25)

(1) 単純集計

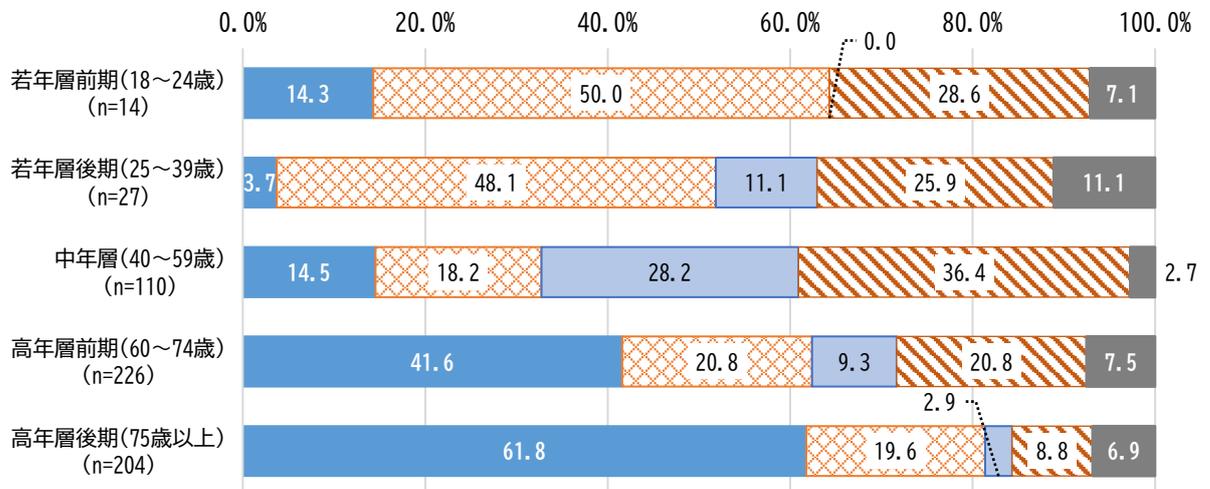
行政手続きがオンライン上で可能になったら利用しようと思うかについて、「と思う」が60.6%と最も高く、次いで「しないと思う」が37.6%となっています。



Pick Up 3 : オンライン手続きをしない理由 (問25-2)

(1) クロス集計 年齢層別

年齢層別では、若年層前期を除いて、高年層になるほど、「オンライン上の操作に自信がないから」の割合が高くなっています。



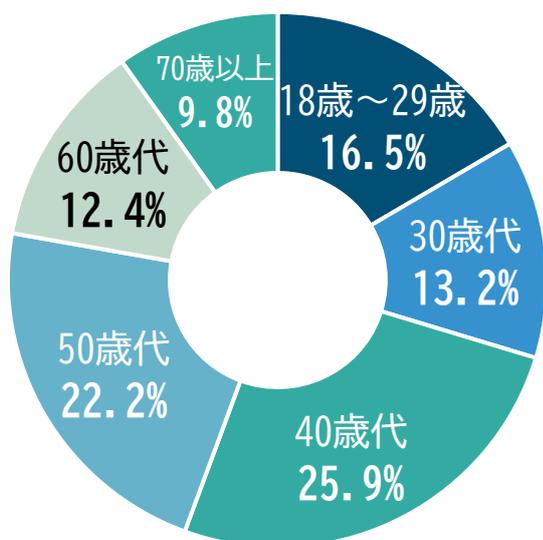
- オンラインの操作に自信がないから
- オンライン上の手続きが煩雑で、市役所に直接行った方が早いと思うから
- 市役所のウェブサイト上で、個人情報を入力することに抵抗があるから
- そもそも、ウェブサイト上に個人情報を入力すること自体に抵抗があるから
- その他

8. インターネット回答について

インターネット回答率

16.5%

郵送回答を含めた全回答者1,608人のうち、インターネットでの回答者は266人でした。インターネット回答の導入により、若い世代の回答率が上がりました。



インターネット回答の年代別構成割は左のとおり。40歳代以下が50%以上を占めています！



この冊子に掲載していない情報やより詳しい結果は、「奈良市民意識調査結果報告書」として、奈良市役所総務課内の行政資料コーナーでご覧いただくことができるほか、奈良市ホームページにて公開しています。

【令和3年度 奈良市民意識調査結果 概要版】

発行：奈良市総合政策部総合政策課

〒630-8580 奈良市二条大路南一丁目1番1号

電話 0742-34-4786（直通）